

研究会・地域部会の報告書

提出者：中川 博之 / 提出日：2019.5.13

研究会・地域部会名	関西地域部会
代表者(所属機関名)	中川 博之 (住友化学株式会社)
タイトル(イベント名)	第26回バイオメディカル研究会
日時	2019年4月19日
場所	グランフロント大阪 タワーC 9階 Vislab
共催団体	公益財団法人都市活力研究所
後援団体	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、 NPO法人バイオグリッドセンター関西
参加人数	67名(うちJSBi会員：未確認)
<p>目的：2025年大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」で描かれる未来社会では、「多様で心身ともに健康な生き方」が実現されていることが望まれ、大阪・関西には世界に誇るライフサイエンス、バイオメディカルの研究拠点には新たなイノベーションが期待されている。そこで、健康・医療分野で利活用が注目されている健康診断データ、ライフログ等をテーマとして取り上げることとした。こういったビッグデータの収集・計測・解析は技術的な進歩も著しいが、今後解決すべき課題も残されている。そこで、本研究会では、健康・医療のデータサイエンスが乗り越えるべき課題について議論した。</p>	
<p>概要：以下の4つの講演とパネルディスカッションを行った。詳細なプログラムは、以下のリンクに記載 (https://www.jsbi.org/news/workshops/20190419-kansai/)。</p> <p><講演> (13:30-16:10)</p> <p>講演1 「2025年日本国際博覧会について」 山向 薫先生 (大阪市経済戦略局)</p> <p>講演2 「疲労科学研究から個別健康最大化のための健康関数の開発へ」 水野 敬先生 (理化学研究所)</p> <p>講演3 「疲労の日常管理を目指して。カメラによる自律神経機能計測技術の開発と健康増進への活用」 船橋 一樹先生 (リコー)</p> <p>講演4 「人工知能技術による医療診断支援」 坂無 英徳先生 (産業技術総合研究所)</p> <p><パネルディスカッション> (16:10-16:55)</p> <p>「データサイエンスが乗り越えるべき課題と今後の展望」 パネリスト) 山向先生、水野先生、船橋先生、坂無先生、坂田 恒昭先生(大阪大学) モデレーター) 藤原 秀豪 (日本新薬)</p>	

成果および感想： 健康・医療に関わるテーマであったためか、広く関心を呼び、参加者の約半数が当地域部会の研究会には初めての参加であった。学会の存在を新規参加者にアピールすることが出来たと考えられる。基本的な健康診断のデータに加え、健康状態を定量化するために有効なパラメーターが同定されつつある。それら計測技術、蓄積データ解析技術自体にも課題はあるものの、健康診断に類するデータは要配慮個人情報であり、その収集・活用には注意が必要なものの、個人の時系列データが蓄積されることで、健康状態の変化を定量的に知ることが可能になると考えられる。非侵襲・非接触で神経活動の状態を計測する技術も開発されている状況が紹介され、今後もこの分野でバイオインフォマティクスを含めたデータサイエンスが重要な役割を担うと考えられる。非常に活発な質疑、意見交換が行われ、新規参加者からも次回以降の研究会に参加したいとの声が多く聞かれた。

バイオインフォマティクスを中心に異分野の交流を図り、以ってイノベーションを促進するという目標に適う研究会であったと考えている。